

茶道部だより

平成元年12月(1989)

発行
大妻女子大学 茶道部
責任者
大野干佳子
佐野麻子

大妻女子大学 茶道部 40周年記念にあたって



大妻祭 添茶会

本日は、雪待茶会にお越しいただきまして誠にありがとうございます。お蔭様で本学茶道部も四十周年を迎えることとなりました。部員数は昨年の四十二名から五十九名と増えまして大変な大所帯で練習に励んでおります。また、今年は大大学の八十周年にあたり、部員一同何か形に残るものをお願いしたい。このように記念誌を発行する運びとなりました。

一面には、本学学長先生、柳澤信隆先生、斎藤宗雅先生のお言葉を掲載しております。



学長

初期の頃は室内運動場の一角に二枚の畳を敷いて稽古をしたとかかっている。住びのなかの少欲知足である。大学生も中学生も一緒に、先に入った者が後から入部した者に作法などを教えていた頃は、自ずと「和」の精神が培われていたのであらう。誰もかかわらざり今日の世界情勢をみると、絶えずどこかで戦いがおきている。一つの国をとって争って、身の回りを振り返ってみても、

大妻学院茶道部として創立して早や四十周年のことおめでと御座います。大妻女子大学が新制大学として認可申請の折角たてた構想を無にしてはと、科外教授として始めることになった。



柳澤信隆

大妻学院クラブ活動の一端として茶道部が創られてから四十周年を迎えて



斎藤宗雅

も然りである。一服の茶を点ててのむときは寂境にあり、相手の人格を尊重しておれば点前のよきも出来よう。茶道を業しみながら「和」のころを体得し、学院で学んだ「知」と合わせて、次の時代を担っていただきたい。

学院長の意を待して柳葉キヨ先生の全面的指導で稽古が始まった。初めは畳もなく応接室のジュエタンの上に座った。次第に室運動場の一角に敷き道具畳と客畳の極佳びの茶の稽古で他の者は周囲に椅子を持ちだして腰をかけて拝見をしていた。雨もりがして畳を移動するなど、初期の稽古は今思っても、おかしい位だ。最初では学院全体から入部する中学生から大妻女子生まで全部一緒の稽古だ。

二年目になった時に中学生二年生が大学の新生に歩き方や、座の方を指導して、ほほえましい光景でした。

その為に本年は各大学茶道部で四十周年記念茶会や名簿の作製、記念文集が企画され、すでに行事が終了した大学もありました。四十年という長い年月をよく毎年の新入会生を指導し、また受け継いできました。私は今年満八十歳ですので大妻茶道部とは一生の内の半分を過ごしたことになる。十年前に私は隠退して斎藤先生と養生先生

の発会を記念して、農大も早稲田大学も部として発足しました。

に指導をお願いしました。が、今だに学生、生徒の皆様から何かとお便りやたい事だと思っております。大妻先生の御言葉に合せ、私は感謝の一語をささげたいと思っております。大妻学院の大学生、高校生、中学生、それぞれの誇りに添えて更に誠意をも持って下さい。五十年、百年の後はどんなに立派な茶道部になっているでしょう。正しく美しく伝えることを伝統の力だと思っております。

「伝統とは何か」と先輩に聞かれた私は、一瞬言葉に窮してしまつた。「あなた達が今、していることですよ。」大妻祭の季節になります。雪待茶会を靖国神社の茶寮を借りて致しました。これは一年間の稽古の総仕上げともなり、部員全員が一番楽しみになっている緊張した中にも和やかさ溢れる楽しい集いです。先代からの長い歩みを続けていきたいと思っております。お点前の勉強と共にいつも和の心を大切に思っている人になつていただきたい。

またこと、おめでとございます。また今年は大妻学院創立八十周年の意義深い年を併せて海によろこばしい限りでございます。私が恩師柳澤先生のおと受継いで茶道部の指導にあたるようになりましてから十年経ちました。その間に多くの方々が茶道と出会い果立っていったわけでございますが、入部当初、茶道は難しく窮屈なものと思われていた方もお稽古が進むにつれすっきりお茶大好きになり、上手にお茶を点てられるようになり成長されていきます。

「雪待茶会」を靖国神社の茶寮を借りて致しました。これは一年間の稽古の総仕上げともなり、部員全員が一番楽しみになっている緊張した中にも和やかさ溢れる楽しい集いです。先代からの長い歩みを続けていきたいと思っております。お点前の勉強と共にいつも和の心を大切に思っている人になつていただきたい。

「伝統とは何か」と先輩に聞かれた私は、一瞬言葉に窮してしまつた。「あなた達が今、していることですよ。」大妻祭の季節になります。雪待茶会を靖国神社の茶寮を借りて致しました。これは一年間の稽古の総仕上げともなり、部員全員が一番楽しみになっている緊張した中にも和やかさ溢れる楽しい集いです。先代からの長い歩みを続けていきたいと思っております。お点前の勉強と共にいつも和の心を大切に思っている人になつていただきたい。

ことば

侘茶の心に触れる

一面にひきつづきまして先生方のお言葉を「載しました。一面には、顧問の石井とめ子先生、いつも何かとお世話になっております学生部長の小林靖之先生のお言葉を掲載しました。

尚、創部四十周年記念というところで部長大野千佳子と副部長佐野麻子の挨拶も掲載しました。



顧問

石井とめ子
茶道部創立四十周年おめでとうございます。

四十年にわたる歴史は、ひとえに先輩達の茶の湯に対する情熱が受けつがれてきた結果によるものと思われまふ。思うに稽古に励んだ日々、鎌倉円覚寺の雲頂庵における夏季合宿、文化祭茶会、靖国神社の茶寮で開かれた雪待茶会、送別の茶会など青春の思い出が心に深く刻まれていることでしょう。一席一席のお茶会にみられる亭主や来客のお手前、作法には緊張感や感激がただよく



円覚寺にて鎌倉の夏合宿

対人的な共感に爽やかな安らぎを覚えます。そこに、一期一会の茶の心を体して「形さえ良ければ、すべて教習の茶道具」といった千利久が示した美意識の昂揚を見る思いがします。

茶道部創設が大妻コタカ先生の念願であったことを柳澤信隆先生によって知り得ました。茶道の心を通して内面から学生の人間形成を願っていたことが推察されます。さて、茶道部は現在まで初代の顧問、故久保ま

保者のご協力に深い敬意を表するとともに、心からお祝いを申し上げます。茶道部の創立から指導に当たられた柳澤先生のお話では当初は応接室のじゅうたんに座ったとのことであり、やがて畳を二畳もらって、室内体育館のすみに敷いて稽古をしたという。本格的な茶室が設けられたのは昭和四十一年の秋のことであった。当時新館とよばれた建物の最上階に設置され、廊下をへだてて約三十畳の和室も設けられた。この茶室は柳澤先生と日連設計の只野さんが相談され、大変な苦勞をされたという茶室を模して造られたもので、大

学としては画期的なものであったという。しかし学院全体の改築工事のためにこの茶室は取り壊され現在は存在しない。ただしこの茶室の襖、欄などはそっくり倉庫に保管され、やがてC棟完成の日には新しい茶室にそっくり使われるという。それほど優れた建具であり、現在の建築会社ではとても造れるものではないとのことである。新しい茶室は目下設計段階にあるが、地階一階に設けられる屋上まで吹き抜けのアトリウム（学生ホール）に接した一角に予定されている。前の茶室に優るものも劣らないものに仕上げられるべく目下関係者が協議中である。この茶室の完成は、

茶道部の古さを感じた。先生方のご協力を得てやっと府川俊枝先生（昭和五十一〜六十二年）、方に長らくお世話をいただきました。私は三代目の顧問として未だ三年目を迎えたばかりですが部員数は年々増えて、クラブ活動の中でも最も多く五十九名を数えます。クラブ離れの現状からして誠にうれしいことです。部員共々、侘茶の何かというものを稽古を通じて、美的な日本の伝統文化の理解を深めたいと願っております。

このたび、四十周年を記念して、名簿の作成並びに記念誌の発行について一昨年から茶道部部長大野千佳子さんに計画し

す。先生（昭和二十四年（五十二年）二代目顧問）府川俊枝先生（昭和五十一〜六十二年）、方に長らくお世話をいただきました。私は三代目の顧問として未だ三年目を迎えたばかりですが部員数は年々増えて、クラブ活動の中でも最も多く五十九名を数えます。クラブ離れの現状からして誠にうれしいことです。部員共々、侘茶の何かというものを稽古を通じて、美的な日本の伝統文化の理解を深めたいと願っております。



学生部長 小林靖之

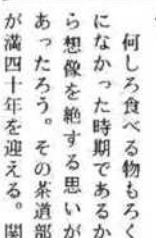
大妻女子大学の茶道部の創立は、昭和二十四年だという。まさに大学の創立と一致している。戦後の混乱期にスタートした新制大学が困苦の道を歩んだと同様に、茶道部の歴史も貧困と苦勞の積み重ねであったと思う。何しろ食べる物もろくになかった時期であるから想像を絶する思いがあったろう。その茶道部が満四十年を迎える。関

私たちの部屋のお道具を一つ一つ見ていくと、毎年毎年買い揃えてきたものがたくさんあります。それらは、私たちが生まれた時よりも古いものも多く、それだけでも我が

茶道部の創立から指導に当たられた柳澤先生のお話では当初は応接室のじゅうたんに座ったとのことであり、やがて畳を二畳もらって、室内体育館のすみに敷いて稽古をしたという。本格的な茶室が設けられたのは昭和四十一年の秋のことであった。当時新館とよばれた建物の最上階に設置され、廊下をへだてて約三十畳の和室も設けられた。この茶室は柳澤先生と日連設計の只野さんが相談され、大変な苦勞をされたという茶室を模して造られたもので、大

学としては画期的なものであったという。しかし学院全体の改築工事のためにこの茶室は取り壊され現在は存在しない。ただしこの茶室の襖、欄などはそっくり倉庫に保管され、やがてC棟完成の日には新しい茶室にそっくり使われるという。それほど優れた建具であり、現在の建築会社ではとても造れるものではないとのことである。新しい茶室は目下設計段階にあるが、地階一階に設けられる屋上まで吹き抜けのアトリウム（学生ホール）に接した一角に予定されている。前の茶室に優るものも劣らないものに仕上げられるべく目下関係者が協議中である。この茶室の完成は、

卒業といえ、私が中学卒業時に、校長先生から、果立ってゆく私達へ、はなむけの言葉を送った。それはなむけの言葉は雲門禪師の言葉にある「日々是好日」です。この言葉は私の大好きな言葉であり私達の部にもその掛け軸があります。



部長 大野千佳子

茶道部の古さを感じた。先生方のご協力を得てやっと府川俊枝先生（昭和五十一〜六十二年）、方に長らくお世話をいただきました。私は三代目の顧問として未だ三年目を迎えたばかりですが部員数は年々増えて、クラブ活動の中でも最も多く五十九名を数えます。クラブ離れの現状からして誠にうれしいことです。部員共々、侘茶の何かというものを稽古を通じて、美的な日本の伝統文化の理解を深めたいと願っております。

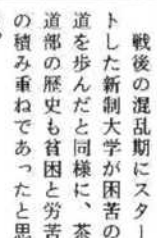
このたび、四十周年を記念して、名簿の作成並びに記念誌の発行について一昨年から茶道部部長大野千佳子さんに計画し

す。先生（昭和二十四年（五十二年）二代目顧問）府川俊枝先生（昭和五十一〜六十二年）、方に長らくお世話をいただきました。私は三代目の顧問として未だ三年目を迎えたばかりですが部員数は年々増えて、クラブ活動の中でも最も多く五十九名を数えます。クラブ離れの現状からして誠にうれしいことです。部員共々、侘茶の何かというものを稽古を通じて、美的な日本の伝統文化の理解を深めたいと願っております。

この四十年という年月には雨の日、風の日、いろいろなことがあったことと思いますが私達の部活がこうして現在を迎えられたのも日々は好日

ですが、新しいことを取り入れながらも、こうして出来上がった伝統を受け継いでいって欲しいと思います。

最後に、今までお世話になった諸先生方、そして先輩の皆様、また大学関係の皆様から心からお礼を申しあげると共に、これから変わらぬご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願致します。



副部長 佐野麻子

茶道部の創立から指導に当たられた柳澤先生のお話では当初は応接室のじゅうたんに座ったとのことであり、やがて畳を二畳もらって、室内体育館のすみに敷いて稽古をしたという。本格的な茶室が設けられたのは昭和四十一年の秋のことであった。当時新館とよばれた建物の最上階に設置され、廊下をへだてて約三十畳の和室も設けられた。この茶室は柳澤先生と日連設計の只野さんが相談され、大変な苦勞をされたという茶室を模して造られたもので、大

私たちが部屋のお道具を一つ一つ見ていくと、毎年毎年買い揃えてきたものがたくさんあります。それらは、私たちが生まれた時よりも古いものも多く、それだけでも我が

茶道部の創立から指導に当たられた柳澤先生のお話では当初は応接室のじゅうたんに座ったとのことであり、やがて畳を二畳もらって、室内体育館のすみに敷いて稽古をしたという。本格的な茶室が設けられたのは昭和四十一年の秋のことであった。当時新館とよばれた建物の最上階に設置され、廊下をへだてて約三十畳の和室も設けられた。この茶室は柳澤先生と日連設計の只野さんが相談され、大変な苦勞をされたという茶室を模して造られたもので、大

学としては画期的なものであったという。しかし学院全体の改築工事のためにこの茶室は取り壊され現在は存在しない。ただしこの茶室の襖、欄などはそっくり倉庫に保管され、やがてC棟完成の日には新しい茶室にそっくり使われるという。それほど優れた建具であり、現在の建築会社ではとても造れるものではないとのことである。新しい茶室は目下設計段階にあるが、地階一階に設けられる屋上まで吹き抜けのアトリウム（学生ホール）に接した一角に予定されている。前の茶室に優るものも劣らないものに仕上げられるべく目下関係者が協議中である。この茶室の完成は、

卒業といえ、私が中学卒業時に、校長先生から、果立ってゆく私達へ、はなむけの言葉を送った。それはなむけの言葉は雲門禪師の言葉にある「日々是好日」です。この言葉は私の大好きな言葉であり私達の部にもその掛け軸があります。